



GIGA ネクストステージ 第1回

「きたコン」は、調べる道具から考える道具へ ～GIGAスクール構想は次のステージへ～

国のGIGAスクール構想により「きたコン」が整備されてから5年近く経ちました。今では、どの教室でも自然に「きたコン」が使われ、子どもたちは学びの中でICTを当たり前のように活用しています。

じつは、最近では「きたコン」の使い方が変化してきていることにお気づきでしょうか？かつては「調べる」「表現する」「提出する」といった使い方が中心の道具でしたが、今では「考えたり伝え合ったりする」ための「思考の道具」や「支援の道具」としても活用され始めているのです。

■ 調べることから、考えを深める学びへ

たとえば社会科の学習では、インターネットで情報を集めるだけでなく、集めた情報を比較し、自分の考えを整理してまとめる活動が増えています。子どもたちは複数のサイトを読み比べ、信頼できる情報を見極めながら、「自分はこう思う」と意見を持つことを大切にしています。これはまさに、「きたコン」が「自分の考えをつくるための道具」として使われている例です。

理科では、観察や実験の様子を写真や動画で記録し、それをもとに考察を深めています。実験やデータを可視化することで、現象をより正確に捉え、友達と意見を交わす時間が生まれています。ICTが見えないものを見えるようにすることで、学びを深く、しっかりと定着しています。

■ 友達と考えをつなぐツールとして

「きたコン」は一人で使うだけのものではなく、みんなで考えを共有するものへと進化しています。国語や道徳の授業では、自分の意見を「きたコン」で発表し、友達の意見を読んで「なるほど」とうなずいたり、「私はこう思う」と意見を重ねたりする姿が見られます。画面を通していても、子どもたちの間に「対話の輪」が広がっているのです。

このような学びの変化を支えているのは、教師の工夫です。単に「きたコン」を使うことを目的にせず、「どうすれば子どもたちの思考が深まるか」という視点で授業を設計しています。ICTは、子どもたちが主体的に考えるためのパートナーになってきています。

■ 学校の外にも広がる学び

こうした変化は、ご家庭でも感じ始めていませんか？自宅で調べ学習をしたり、学校で学んだことを家族に説明したりする姿が見られるようになっていませんか？保護者の方が「今日はどんなことを考えたの？」と声をかけるだけでも、学びはぐっと深まります。ICTは親子の会話のきっかけになるのです。

また、「きたコン」で作ったスライドや作品を保護者が見て感想を言ってあげると、子どもたちにとって大きな励みになります。「こんなにできるようになった」という自信が、次の学びへの意欲につながります。

■ これからのGIGAスクールに向けて

「きたコン」は、もはや「特別な道具」ではありません。鉛筆やノートと同じように、子どもたちの考えを形にする「現代の文房具」です。

「北区GIGAスクール通信 みらい」は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、学び未来課が毎月発行いたします。

きたちゃんコンちゃん

by Toshi



GIGA スクール構想の目的は、ICT を使うことそのものではなく、一人一人の学びを豊かにすることです。その本質が、学校現場で確実に根づき始めています。

これからも、子どもたちが「調べる」「考える」「伝える」力を伸ばし、自分の思いを豊かに表現できるよう、学校と家庭が一緒になって支えていきたいです。ICT は、学びをひろく「扉」であり、未来へと続く「橋」でもありますから。